

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

| | |
|-------|------------------|
| 制作団体名 | 公益財団法人 びわ湖芸術文化財団 |
| 公演団体名 | びわ湖ホール声楽アンサンブル |

| 内容 |
|---|
| <p>ワークショップ「ふれあい音楽教室～泣いた赤おに～」</p> <p>オペラ歌手を職業とする声楽家とピアニストが音楽の授業を行います。 「歌手ってどんな仕事?」「オペラってなに?」「泣いた赤おにってなに?」の3つの「?」を柱に、ミニコンサートなどの実演を交えてわかりやすく説明します。 また、声の出し方や歌う姿勢など普段の歌い方の参考になる指導内容に加え、劇中で参加して歌う歌を覚えます。身振り手振りを付けた覚えやすい歌なので、全学年で参加することができます。 コンサート鑑賞、合唱と歌唱指導を通じて、歌声に対する児童の関心を高めることを目指し、公演当日への期待を膨らませます。</p> <p>◆校歌 ◆お話 ・自己紹介 — “歌うこと” が仕事だということ。 ・オペラってなんだろう ◆声の特徴を聴いてみよう ・オペラアリア（男声・女声それぞれ） — 何語で歌ったでしょう?などクイズも交えて ・日本語の歌 ◆泣いた赤おに紹介 あらすじ紹介等 手遊び歌をみんなですてみよう — 発声の仕方、歌う姿勢なども指導 ◆質問コーナー</p> <p>*使用備品：ピアノのみ</p> |

| タイムスケジュール（標準） |
|---|
| 開始 30分～1時間前 リハーサル・ウォーミングアップ *会場設営等はありません。 |
| 各校希望時間 ワークショップ開始 |

| 派遣者数 |
|--|
| 主指導者 1人 補助者 5人（歌手1人、ピアニスト1人、スタッフ3人） |
| 合 計 6人 |

| 学校における事前指導 |
|---------------------|
| 当方からの指定・要望は特にありません。 |

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

| | |
|-------|------------------|
| 制作団体名 | 公益財団法人 びわ湖芸術文化財団 |
| 公演団体名 | びわ湖ホール声楽アンサンブル |

| |
|---|
| 演目 |
| オペラ「泣いた赤おに」（全1幕／日本語上演） 原作：浜田廣介 作曲：松井和彦 演出：中村敬一 指揮：大川修司 ピアノ：掛川歩美、宮本遥花 打楽器：西岡まり子／安永早絵子 出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル 公演時間：約70分（公演前後の挨拶等含む） |

| |
|-------------------------------|
| 派遣者数 |
| 出演者 11名 スタッフ 13名 合計 24名 |

| | | | | | |
|----------------------|------------|-------------|-----|-------------|-------|
| タイムスケジュール（標準） | | | | | |
| 到着 | 仕込み・場当たり | 本公演 | 内休憩 | 撤去 | 退出 |
| 8:45 | 9:00～12:30 | 13:30～14:40 | なし | 15:00～16:00 | 16:15 |

| |
|--------------------|
| 実施校への協力依頼人員 |
| 特になし |

| |
|--|
| 演目解説 |
| <p>【あらすじ】 人間と仲良くなりたい赤おには、ある日家の前に立て札を立てました。「ココロノヤサシイ オニノウチデス ドナタデモ オイデクダサイ」。けれども村の人たちは警戒して誰も近寄ろうとはしません。それを聞いた親友の青おにが考えました。「僕が村で暴れるから、僕をおさえて頭をぼかぼかなぐればいい。そうすれば人間たちは君を信用するさ」。赤おには、ためらいながらも青おにの言うとおりにしました。すると、安心した村人たちは競って赤おにの家に遊びに来るようになりました。</p> |

楽しい毎日を送る赤おにでしたが、それ以来青おには一度も訪ねてきません。心配して訪ねていった赤おには、誰もいない青おにの家の戸口に張り紙を見つけました。「キミト ツキアイヲ ツツケテ イケバ、ニンゲンハ キミヲ ウタガウ コトガ ナイトモ カギリマセン」。そして、こう締めくくられていました。「ドコマデモ キミノ 友ダチ 青オニ」。赤おには涙をながして泣きました。

【見どころ】

オペラ「泣いた赤おに」は、浜田廣介の児童文学を原作に、松井和彦が構成・作曲した子供向けオペラです。よく知られた原作に親しみやすい音楽が合わさり、物語の流れや登場人物の心情が児童にもわかりやすく効果的に表現されています。登場人物のキャラクターもはっきりと描き分けられ、物語の背景を理解する一助となっています。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

物語の途中で登場人物の呼びかけにより、簡単な手遊び歌を全員で行います。客席にしながら参加することができ、物語の一員として話のなかに入り込めます。舞台上と客席にいる全員で一緒に行くことで、生の舞台の一体感を味わうこともできます。手遊び歌は事前のワークショップなどでも練習します。

児童生徒とのふれあい

ワークショップで身近に出会った歌手が、当日の舞台上では衣裳をつけてメイクをしたオペラ歌手として登場します。マイクを使わず会場中に響き渡る声で歌う迫力を感じ、ステージから降りて児童の近くで歌ったり演技したり、児童も歌って物語に参加し、一緒にその日にしかない公演を作りあげます。